

「京丹後市教育大綱（案）」に対する意見とそれに対する市の考え方
(第2回京丹後市総合教育会議後)

(敬称等は略)

項目	意見要旨	考え方
<p>策定にあたり、中高校生の意見を取り入れることを求めます</p>	<p>私は、基本的に教育大綱は未来志向だと捉えています。その捉えに基づいて理念を読み解くと、京丹後市が「実現します。」と言い切る「教育」には、とても重要なことが抜け落ちているように思えます。それは、「今を共に生きる」という視点です。大人が今ある問題の納得解を見出すことがままならないのに、大人が子どもに未来の問題の納得解を見出すことを求めているようです。大人が今の問題を先送りし、更に困難な未来の問題の解決を子どもの教育に賭けているように見えます。</p> <p>京丹後市まちづくりの基本条例の前文に「市民自らが考え、責任をもってまちづくりを進めていく必要があります。」とあります。「学びの主体である子ども」も「市民」ですので、子どもが教育大綱の策定に参画することは不可欠だと思います。京丹後市は、この教育大綱の策定作業を通して、「大人が子どもと共に納得解を見出そうとする」、つまり「今を共に生きる」ことを、まず「実現する」努力をした方がよいでしょう。そのためにも、中学生や高校生の意見を求める「丁寧さ」が市政には必要だと思います。</p> <p>また、「個々人の幸福な人生形成」には社会の持続可能性が不可欠で、「社会の幸福」という視点も大切だと思います。キーワードとなる「幸福」や「持続可能性」とは如何なるものかを共に見つめる作業も必要で、「創り手」である中学生や高校生の意見は貴重なものであるはずで、Roots 京丹後市未来チャレンジ交流センターが子どもと大人をつないで納得解を見出す経験値を高めていることとすし、京丹後市には、策定スケジュールを改めて、中学生や高校生の意見を取り入れる作業を入れることを求めます。</p>	<p><u>今回のパブリック・コメントを通じ、大切な視点のご意見をいただき、誠にありがとうございます。</u></p> <p>教育大綱は、教育の目標や施策の根本的な方針として、国の教育振興基本計画等を参酌して定めることとされています。また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、総合教育会議において首長と教育委員会が協議・調整を尽くし、首長が策定することとされています。</p> <p>今回お示しした「京丹後市教育大綱（案）」につきましては、京丹後市総合教育会議において市長と教育委員会が協議・調整するとともに、パブリック・コメント等も通じながら様々な意見をお聞きしてまとめることとしております。</p> <p>もちろん未来を担う中高生の意見は重要です。だからこそ、中高生の普段の生活や学校生活などでの意見をまちづくりに取り込むことができる環境づくりが大切であると考えています。</p> <p>このような環境づくりを促し、後押しするものが教育大綱であり、多様な関係者や関係機関等が連携し、子どもたちが社会とつながる協働的な学びの一体的な充実を図ることなど、広く今回の理念、柱に<u>盛り込んでいます。</u></p> <p><u>本大綱のもと、具体的な教育活動の中で、広く子ども達の意見を聞く機会を大切に、その意見がしっかりと教育活動やまちづくりに反映できるように努めてまいりたいと思いますので、ご理解いただきますようお願いいたします。</u></p>